

人間社会学部

試験問題冊子

(A日程 1月29日)

国語

注 意

- ① 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
- ② 問題冊子に落丁、乱丁があった場合は、試験監督者に申し出ること。
- ③ 試験監督者が試験開始の指示をしたら、ただちに解答用紙の所定欄に、受験番号を記入し、マークすること。
- ④ 解答は全て解答用紙に記入すること。
- ⑤ マーク式解答欄および裏面の記述式解答欄の指定された箇所以外は使用しないこと。
- ⑥ 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

注意 解答はすべて各問の下端の 内に指示された解答欄にマークまたは記入すること。なお、解答欄のうち、この試験で使うのは、マーク式解答欄の 1 14、記述式解答欄の A J のみである。

問題一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

生というものは子供の頃にバクゼン¹と想像していたものとだいぶちがった感想を抱いている人は少なくないだろう。人生はけっして単純ではないし、能天気に渡っていきけるものでもない。

子供のときに考えていた絶対的な正義とか善悪も大人になってみればいよいよ見出せなくなっている。価値観の相対化があたりまえになった現代だからそうなのか、それとも純粹な観念は絵空事、もしくは庶民には理解できない学問上のことなのか。

幸福ですら、今はなつかしい記憶の中に浮かぶ数葉の写真のように遠い。あるいは、幸福などというのはたんに金銭の多さだけからのみ生まれるものなのか。あるいはまた、幸福をはじめとしてわたしたちが求めているものは一種の蜃気楼なのか。

不幸になるのは難しくはない。現実になすべき事柄を放り出して意味の曖昧な観念や観念を追い続けるならば、確実に不幸になる。というより、貧してしまう。

ところで、ここに記した不幸も幸福も、意味のはっきりしない観念だ。言葉のみ輝きをまとうて宙空に浮いている。そして、いつまでもその真の意味は濃い霧の中だ。

もちろん、幸福とは健康、裕福、運などに恵まれることだと断定する人もいる。では、病人は不幸なのだろうか。裕福でないのは不幸なのだろうか。生涯にわたって宝くじに当選することのなかった人は不幸なのだろうか。

真理という言葉もまた観念にすぎない。真理の意味など、大昔から今まで誰も明確に述べることはできなかった。一般的な用法での正義も観念そのものだ。美も観念だ。善も観念だ。永遠も観念だ。いかにも美しく見える言葉の多くが観念語だ。

人はそういった観念語¹⁷をみだりに使って、自分が心中で画策している欲求をラッピングしてしまう傾向がある。たとえば政治家は、観念の言葉を中心に置き、自分がいかにその観念を実現化する力があるかということをアピールするという手法を使うのだ。

また、下心ある男性は抽象的な観念語を浴びせて女性を口説く。ぼくの愛がわからないのか。こんなに愛しているじゃないか。ぼくだけがきみを幸せにすることができる。運命がぼくたち二人を引き合わせたのだよ。

ビジネス界に蔓延²している観念語は成功と失敗だ。ビジネスマンたちはこの脅迫的な観念語のために一喜一憂し、人間的な生活を削っている。そのハードな日々³に追い打ちをかけるように、ビジネス書はこの成功と失敗という観念がいかに現実そのものの評価であるかのように語る。

観念語を組み合わせた文章もビジネスマンたちを悩ませる。その最大のものは、「資本主義とは利潤の追求である」だ。この観念的な定義は現実にはそぐわない。

a、実際に利潤の追求がならテイタイ³なく実行され続けるならば、ある一企業だけが全世界の金銭と可能性を集める状況になり、その進行の途中から世界は加速度

的に破滅に向かうからだ。あげく、その企業の社員も残らず餓死するだろう。

だから、「資本主義とは利潤の追求である」という妙な定義は一種の諧謔⁴か、幻を描くための下手な詩的表現とみなすほうが妥当かもしれない。そうでないと、この言い方

にはまったが最後、精神的にも窮地に追い込まれてしまうだろう。仏教界で修行者たちを悩ませている観念語の代表的な一つは仏性だ。仏性とは、悟りを開く可能性といったほどの意味だ。この観念語にとらわれた修行僧は禪師に、犬にも仏性があるのだろうかと真面目に尋ねたりする。

こういう質問自体が愚かなのは、観念語がなにかリアルな事柄をそのままに意味にしていると考えてしまっているからだ。成功とか幸福を追い求める人も同じだ。成功するための条件や幸福になるための条件があると思いついでいる。

あるいはまた、そういった深遠に見える観念語には特別な意味がひそんでいるにちがいないと思いついでいる。そして自分なりに探索するのだが、見出されるものはなく徒勞に終わる。そして人生も終わる。

哲学者たちも同じ徒勞をくり返してきた。たとえば、あの有名なソクラテスだ。ソクラテスはいろんな人々としつこく問答をすることによって真善美とは何かということを追及してきた。けれども、結果はどうだったか。きらめく数々の観念や概念の中身のこれっぽっちも明らかにされなかった。

たとえば、ソクラテスが美少年二人と友情について議論する『リュシス』(プラトン著)という短めの対話篇が残されているが、結局は友人とは何かということについて輪郭さえも定かにされず、とりあえずの結論も出ないままに終わるのである。

確かにいろいろ考えることはたいせつだ。また、考えることで学問が拡大発達してきたわけでもある。しかし、やはりあれこれと自己流に考えるだけで人生を終わらせるのは、閑暇をもてあましていて人生を棒に振ってもいいという覚悟を持った人にしかできない遊びではないだろう。

だから、ヴィトゲンシュタインは一九三一年の七月末のメモにこう記している。「ソクラテスの対話を読むと、こんな気持ちになる。なんと恐るべき時間のムダ⁵！」(なにも証明せず、なにも明晰にしない、これらの議論は何の役に立つのか)(丘沢静也訳)

わたしたちが目覚まさないといけないのは、いくら観念や概念の中身を追い求めたところで、期待していた恒常的な正答、すなわちワンサイズの答えなど最初から存在しないとということだ。ワンサイズの洋服だけ売って店がないように。

もし、真理とは何か、真善美とは何か、といった事柄についてたつた一つの正答が、あったらしよう。そして、その正答が発見されたらしよう。すると、どうなるか。

思考実験を試してみればすぐわかるはずだ。わたしたちは脱力するだろう、また曖昧でこのうえなく混沌としていたこの世界が、一瞬で無意味な茫漠とした世界になるだろう。今のよくわからない状態はもどかしいものではあるけれど、霧の中を歩くように神秘的な状態でもある。しかし神秘的ということは、人にとってこのうえなく魅力的なことでもあるのだ。

また、わからないからこそ、自分が生きてみる価値が見出せるというものだ。他人ではなく、この自分が生きてみて初めて、昔から言われてきた幸福だの永遠の美だのといったものの回答内容を自分の人生をもって埋めることができるからだ。

それ以上におもしろいことが他にあるか。学者が頭で考えた価値や意味に合わせた価値や生き方など生きるに値しないであろう。だから、わたしたちはこの今を泣き笑いしながら生きるのだ。それ以上の幸福がどこにあるか。

(白取春彦 『生きるための哲学』)

問1 傍線部1、3、5のカタカナを漢字に直して、傍線部2、4の漢字のよみをひらがなで、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1 A 2 B 3 C 4 D 5 E

問2 a に当てはまる最も適当な語を、次の①～④の中から一つ選びなさい。

1

- ① ところが ② すなわち ③ なぜならば ④ そのうえ

問3 傍線部ア「観念語」の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

2

- ① 観念語の意味は曖昧なものである。
② 観念語はリアルな事柄を意味する。
③ 観念語は深遠で特別な意味をもつワンサイズの語である。
④ 観念語は修行僧や哲学者にとって重要な詩的表現であった。

問4 傍線部イ「幻を描くための下手な詩的表現とみなすほうが妥当かもしれない」と筆者が考える理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

3

- ① 成功と失敗という観念は現実そのものの評価であるから。
② 企業が利潤を追及する事で加速的に餓死者が増えているから。
③ 実際には実現不可能な観念的な定義であるから。
④ ビジネスマンたちは成功と失敗に一喜一憂して人間的な生活を削っているから。

問5 次のa～dについて、本文の内容と合致するものを①、合致しないものを②として、それぞれの解答欄にマークしなさい。

a もし真理とは何かについて一つの正答が発見されるならば、曖昧でこのうえなく混沌としていたこの世界が一瞬で神秘的で幸福な世界となるだろう。 4

b 成功とか幸福を追い求める人たちは、成功するための条件や幸福になるための条件があると思い込んでいるが、それらを追い求めても徒労に終わるだろう。 5

c 他人が考えた価値や生き方などは生きるに値せず、この今を自分の価値を追い求めて生きるべきである。 6

d 真理や美、善、永遠など美しく見える言葉の多くが観念語であり、それらの意味は誰も明確に述べることができない。 7

問題二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

孔子の母方の職業がシャーマンであったとか、「儒¹」という漢字がそもそも雨乞いというシャーマンの仕事と関係するなどという理由から、孔子や儒とシャーマニズムの関係を論じることがこれまで、有力な説としてあった。

しかし、私の考えでは、孔子はシャーマニズムよりもむしろ〈アニミズム〉により近い思想家だったのである。

シャーマニズムと〈アニミズム〉は往々にして混同されるが、まったく異なる思想である。

シャーマニズムは「天」という超越的な存在を信じ、その天と地上を媒介するシャーマンが地上に君臨するという世界観である。すべての価値は天にあり、天が地上のすべてをトウカツするのである。²したがってシャーマンは天の代理者として絶対的な権威を持つ。なぜなら天とその代理であるシャーマンこそが、普遍的な価値そのものだからである。

孔子は『論語』のいたるところで、このようなシャーマニズムの世界観を批判している。たとえば、

子の曰わく、君子は上達す。小人は下達す。 (憲問第十四)

というのは、ふつう、「君子はコウシヨウなことに通ずるが、小人は下賤なことに通ずる」(金谷治訳) というように解釈されているが、そういう意味では決してない。

「君子」とは、〈アニミズム〉的な教養を持っている人をいう。それに対して「小人」とは、シャーマニズム的な世界観の持ち主である。この小人は、すべてを「天」の普遍的価値から演繹して世俗社会に当てはめようとする。つまり「天³上」の価値観が普遍だとしてそれを「地上³下」の世界に強引かつ権威的に押しつけるのである。このような演繹的なやり方を「下達」という。上から下に達する、というベクトルである。

しかし君子はそんなことはしない。普遍的で超越的な価値などを無条件に信じたりはしない。

a、「君子は天命を畏れるが、小人は天命を知らないし畏れない」(『論語』季氏第十六)といわれるが、これは小人は天命というものの本質を知らず、無闇に演繹的に天を利用するのだという批判である。逆に君子は、身近なモノ・コトを徹底的に調べて、**b** 的にひとつひとつ妥当性を確認していき、信じられるものに近づいてゆく。このようなやり方を「下学⁴して上達す」(『論語』憲問第十四)というのである。だから孔子は天命を知るまでに五十年という時間がかかった。

なぜ君子の方法論である「上達」が、〈アニミズム〉的なのだろうか。それを理解するためには、アニミズムという世界観に対する間違った認識を変える必要がある。ふつう、アニミズムというのは、森羅万象に生命・アニマ・カミなどが宿っていると信じる世界観であり、それゆえ岩石や樹木などにも生命・アニマ・カミなどが宿っていると考えるのだ、と思われている。

しかし、本当にそうだろうか。日本の〈アニミズム〉を考えていただきたい。八百万の神というのはどういう意味だろうか。八百万というのは、「すべて」という意味では

なく、「c」という意味である。つまり、森羅万象のすべてがカミだといっているのではない。同じ石でも、カミとしてあがめられる石と、そうでなく何の価値もないとされ粗雑にあつかわれる石もある。つまり、同じ石でもカミである石と、そうでない石がある。カミが八百万もいるからといって、すべての石がカミであるわけではないのである。これが〈アニミズム〉の世界観である。

それなら何が生命やカミとなり、何が生命やカミとならないのであろうか。天という超越的な存在がそれを決めていくわけでは全くない。その村や国や共同体などの成員の多くが、ある石に何らかの〈いのち〉を感じ取ることができ、それが帰納的に、つまり上から下へではなく、下から上への認識によって共同主観的にオーソライズされれば、生命やカミとなるのである。

孔子は母方からシャーマニズムの世界観を受け継いだが、彼にとってそれよりも重要なのは、周という国家を支えていた統治イデオロギーである。孔子自身の出自は殷の末裔だが、彼が生まれたのは周という輝かしい国家の末裔である魯国^{（魯）}だった。そして孔子は、周の統治において最も重要だったのは「礼」であると考えた。

礼とは、氏族集団や郷党^{（郷党）}集団が共同性を保持しつつ日々の営みをきちんきちんとやっていくための慣習・掟・文化である。これは、超越的な価値によって演繹的に（下達的に）つくられたものではない、というのが孔子の考えだった。その共同体の長い歴史の中で、固有の環境や条件などの制約を受けながら、帰納的にこつこつとつくりあげていく（上達）ものである。そして共同体的な人間は、礼にもとづいて言動するときにもっとも生命力を輝かすと孔子は信じたのだった。

ところが実は、孔子の時代には周の古い文化はほぼ廃れつつあった。それに取って代わったのは、グローバルな価値の優位を掲げる⁴ 覇権志向的な勢力であった。グローバルな勢力はまず、氏族社会や郷党社会において通用していたあらゆる中間的価値を撲滅しようとする。この運動を担ったのが「小人」たちなのである。

それに対抗した「君子」たちは、グローバルかつ普遍的な価値に対抗して、氏族社会や郷党社会において何が〈いのち〉であるかという〈アニミズム〉的な世界観を死守しようとした。

子の曰わく、君子は和して同せず、小人は同じて和せず。（子路第十三）

というのは、君子は氏族社会や郷党社会の〈アニミズム〉的な礼を守って調和するが、すべてを普遍的な価値に同一化しないのに対し、小人はすべてをグローバルな価値に同一化させ、それゆえ敵対者とは調和せずに争うということをしているのである。

〈アニミズム〉を奉じる孔子は、人の顔色や立ち居振る舞い、もののたたずまいや姿、音色などに関してたいへんに敏感であった。鳥の言葉を理解する弟子の公冶長^{（公冶長）}には娘を嫁がせている。またたとえば、

子の曰わく、巧言令色、鮮^{（鮮）}なし仁。（学而第一、陽貨第十七）

というのは、演繹的なコミュニケーション能力が高くて普遍的な価値を体現したつるの顔を持つグローバルな人材を指している。そのような人びとは、氏族社会や郷党社会に固有の仁という価値とはなかなか相容れないというのである。

さて、孔子のこのような世界観は、独特の生命観に基づいている。それは、生命とは普遍的な現象ではなく、ある特定の共同体や感性共有集団の中だけで認められる現象だということである。これこそが〈アニミズム〉の世界観である。ある石や木が生きているか否かということは、何らかの普遍的な価値基準によって演繹的に決められることではなく、その石や木を見る人びとの集団的な感性によって帰納的に決められる、という世界観である。

だが、このような〈アニミズム〉的世界観は結局、春秋戦国時代の末期に氏族社会や郷党社会が崩壊し、強大な中央集権の統一国家ができあがっていく過程で、完膚なきまでに打倒されてしまった。

グローバルな勢力は、孔子の〈アニミズム〉的世界観を嫌悪し、普遍的かつシャーマニズム的な世界観を採用した。(中略)

やがて、古くさい〈アニミズム〉的な生命観は忘却され、『論語』における孔子の言葉もいつしか意味不明なものになってしまった。『論語』の注釈はすべて、ピントのずれたものになってしまったのである。

(小倉紀蔵 『新しい論語』)

問1 傍線部1、4の漢字のよみをひらがなで、傍線部2、3のカタカナを漢字に直して、それぞれ記述式解答欄に記しなさい。

1 F 2 G 3 H 4 I

問2 傍線部ア「〈アニミズム〉」について筆者の考える意味として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

8

- ① あらゆるものに生命が宿っているという世界観
- ② すべての石がカミであるわけではないという世界観
- ③ 共同体の集団的な感性によってモノに生命を認める世界観
- ④ 普遍的な価値基準によってモノに生命を認める世界観

問3 空欄 a に当てはまる最も適当な語を、次の①～④の中から一つ選びなさい。

9

- ① まったく
- ② たしかに
- ③ なぜなら
- ④ あたかも

問4 空欄 b に当てはまる漢字二字を本文中から選んで記述式解答欄に記しなさい。

J

問5 傍線部イ「孔子は天命を知るまでに五十年という時間がかかった」理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

10

- ① 孔子は小人であったので天命の本質を知らなかったから。
- ② 孔子は君子であったので天命を畏れたから。
- ③ 孔子はシャーマンの家系であったから。
- ④ 孔子は〈アニミズム〉的な方法論をとったから。

問6 空欄 c に当てはまる最も適当な語句を、次の①～④の中から一つ選びなさい。

11

- ① かぎりなくたくさん
- ② 無限の
- ③ えらばれしもの
- ④ おおむね

問7 傍線部ウ「巧言令色」の意味として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

12

- ① 言葉たくみに声色を変えて人に取り入ること
- ② 言葉たくみに容貌を整えて印象を良くすること
- ③ 弁舌さわやかに声色を変えてだますこと
- ④ 弁舌さわやかに容貌を整えて人を貶めること

問8 本文中で「小人」と関連する語として最も適当でないものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

13

- ① シャーマニズム
- ② 下達
- ③ 礼
- ④ グローバル

問9 筆者の主張として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

14

- ① 孔子はグローバル社会における普遍的な価値を説いた。
- ② 孔子の言葉は古くさいので意味不明である。
- ③ 孔子は共同体の中で帰納的につくりあげられた礼を重視した。
- ④ 孔子は人の立ち居振る舞いなどは礼に基づくべきだと考えた。

(以上)